

2022/02/28 (月)

朝の礼拝

聖書 イザヤ書 2章 4節 (旧約聖書1063頁)

主は国々の争いを裁き、多くの民を戒められる。
彼らは剣を打ち直して鋤とし
槍を打ち直して鎌とする。
国は国に向かって剣を上げず
もはや戦うことを学ばない。

平和への祈り

皆さんは「バイアス」という言葉をご存じでしょうか。例えばひとり部屋でネットの情報、口コミを見て偏った情報を思い込み、自分で考えなくなることを言います。特に犠牲者を伴う事故などではあまりに大きな犠牲者の数を提示されると、犠牲者の苦しみに対する共感の気持ちは低下していくと言われていています。自分の出来ることが限られ、無力感が募るからだと言われていています。

それと対照的な言い伝えが南アメリカにあります。「ハチドリのしずく」というお話です。

森が燃えていました。
森の生き物たちは、われ先にと逃げていきました。
でもクリキンディという名のハチドリだけは行ったり来たり
口ばしで水のしずくを一滴ずつ運んでは、
火の上に落としていきます。
動物たちはそれを見て
「そんなことをして いったい何になるんだ」と笑います。
クリキンディはこう答えました。

「私は、私にできることをしているだけ」

クリキンディの心は燃えさかる炎の恐怖よりも、森や生き物たちを慈しむ思いで満ちていました。

またマザーテレサは幼い時に第一次世界大戦を、やがて修道女として第二次世界大戦を、戦後、イスラム教とヒンドゥー教の宗教対立をインドで体験し、後に道ばたの棄児、死者に寄り添いました。

ノーベル平和賞の授賞式で「世界平和のために私たちは何をしたらいいですか」と訊ねられたテレサは、次のように答えました。

“ Go home and love your family.”

「家に帰って家族を愛してあげてください」

“ Peace begins with a smile. ”

「平和は微笑みから始まります」

人間は自分から遠い出来事に無関心です。そして時間の経過と共に忘れます。だから身近な生活、家族、友だちと微笑みを交わすこと、そしてどんなに離れ、時間が経っても互いに祈りを交わすことで平和が生まれるのです。ネット社会、感染症によって孤立する社会にあって、これほど力強いものはありません。

しばらく黙祷しましょう。

愛と平和の源である主よ、あなたは預言者イザヤを通して「剣を打ち直して鋤とし、槍を打ち直して鎌とする」と言われました。どうか分かれ争う人々が武器を棄て、互いに家族を愛する平和な日々を取り戻すことができますように祈ります。今日一日もすべてをあなたに委ね、喜びと感謝のうちに過ごさせてください。主イエス・キリストによってお願いいたします。アーメン